



S級・A級・B級

審査員規定

JHPA

日本へら鮎プロ認定協会

JHPA日本へら鮎プロ認定協会

S級審査員規定

H. 26. 9. 14

競技開始前の準備

1. 審査員は、審査用紙、釣り道具の認定を行う
2. 審査員は、椅子を競技者の邪魔にならず、尚且つ掛かった魚が見える位置に置く。
3. 椅子、その他のものを見やすいと思われる場所に一般の人に対しての注意看板を立てる
4. 秤は、使用前に無負荷の状態にて0 kgを示しているか確認すること。0 kgでない場合には、その時点で調整をし、検量を行うこと。原則として一度でも狂っている状態で測定した場合には、以後調整をしてはならない。
5. フラシを競技者に確認してもらい(穴開き等)約5分間フラシ掛けに設置して水につけ、持ち上げてから約5秒後にフラシの重量を測り(競技者にも確認してもらい)、同重量のフラシを使用すること(フラシとは、魚を一時保管する網です)
6. 仕掛けの確認をすること
 - (1) 道糸の長さは、穂先より竿尻以内とする。ハリスより上はすべて道糸とみなす。
 - (2) 浮子は、全長10cm以上とし自立浮子は禁止とする。

- (3) 浮子止めゴムから第1おもりまでが1 m以上あること。第1おもりとは、浮子に一番近いおもりのことをいう
- (4) 宙釣りの場合、穂先から浮子止めゴムまでの長さが使用する浮子の長さ以上にあること（宙釣りとは、水面から1.5m～3.5mです）
- (5) ハリスの長さは、80cm以内とする。
- (6) 鈎の大きさは、池規程とする。
- (7) 鈎の本数は、2本とする。
- (8) 竿は池規定とする
- (9) 竿には、長さを示す表記がされていること

7. 競技者への簡単な注意事項を伝える

- (1) 競技開始、休憩、終了時間を伝える
- (2) その他、その日の状況で伝える必要があると思われるもの

競技開始前の注意

仕掛けについて（6. を読み上げる）

失格対象項目

スレを入れた場合

検量カードへの名前の無記入

以上のことを良く理解し、注意及び警告を与えるものとし、審査員の判定は、絶対であるという原則に従い競技者に対して毅然とした態度をとることとする。

競技中

8. 椅子に座って審査をすること。その際に必要不可欠なこと以外で席を立たないこと
9. 競技者、その他の人との私語は、慎むこと
10. 釣り座には、関係者以外を近づけさせないこと
11. 競技者は、浮子を故意に立たせてはいけない
12. 浮子に出たアタリに合わせること
13. 一発、オカメ類、生エサ、こんにゃく、豆腐は、禁止とする。(日本へら鮎プロ認定協会が認めないエサは、すべて禁止) S級とA級はメーカーの未開封のエサを使用する
喰わせ餌は協会が調査し認定した物に限る
14. エサは、釣以外に付けて投入してはいけない
15. エサは必ず2本の釣にそれぞれ付けて投入すること。
16. 振込みの際にエサが振り込みポイントに到達する前に落ちた場合には、速やかに仕掛けを回収し、やり直すこと
17. 合わせたら速やかに仕掛けを回収すること
18. 競技者が魚を掛けた際には、スレ、魚種を確認し、すみやかに競技者に判定結果を伝えること
19. 確認する前に外れた場合は、ノーカウントとする
20. 魚を取り込んだときには、速やかにタモからフラシに入れる事(次のエサを投入する前にフラシに入れる事)
21. 竿掛けに竿が乗っていなければ合わせてはいけない(故意に竿を浮かせて競技してはならない)

22. 競技者は、フラシに入れたへら鮎の数を把握していること
(カウンターを使用していること)
23. 競技者は、棧橋上で道具等の貸し借りをしてはならない
24. 競技者が竿から手を離している時に掛かったへら鮎はフラシに入れてはならない
25. 競技者が竿をとられた場合には、競技者の手から竿が離れた時点で、掛かっているへら鮎はフラシに入れてはならない
26. 合わせ時、振込み時に隣に竿が被る行為は禁止とする(隣からのクレームがあった場合)
両隣りとの間、1.5メートルまでとし、片方(75センチ)を超えると迷惑行為とする
音を立てて竿を下さない
横合わせ、水面をたたく行為
27. 寝浮子での合わせは禁止とする。(喰い走りは、良しとする)但し、半立ちの状態です釣りを引いて道糸を沈める行為で喰い走った場合、何度も行なったら警告とする
寝浮子で道糸が走る行為
流し釣り、左右1メートルとする、手前は穂先 50 センチまでとする
浮子を引っ張って立たせない
28. エサ切りは、浮子が立ってから行うものとする
29. スレ取りは禁止とする。(口の内側から掛かっているもの以外はスレとみなす)スレたへらをフラシに入れた場合は、失格とする
30. 競技者の途中棄権を認める
31. 釣り時における暴言及び大声は禁止とする

32. 競技中は、アルコール類の摂取を禁止とする
33. 競技者は他の席に行かないこととする
34. 競技終了まで道具は片付けないこととする
35. 竿を換えるときは、それまでの竿を必ず片付けてから、次の竿を出すこと
36. 栈橋上で下駄、スリッパ、ヒール及びミュール等、歩くときに音がする履物は禁止する
タイヤ付の荷物を乗せる台車を使用禁止する。
37. へら鮎以外の魚を釣った場合、定められた容器に入れるか、各自で処分する。（栈橋の上には絶対に捨てない）
38. 審査員は、競技者に対して望ましい行為でないと判断した場合には注意をすることが出来る。その際には、競技者に対して注意である旨を伝えること
39. 審査員は、競技者に対して注意の域を超えていると判断した場合には、警告をすることが出来る。その際には、競技者に対して警告である旨を伝えること
40. 警告は2回目からペナルティーとして1kgづつを釣果から引いていく（3回目で2kg、4回目で3kg…引いていく）
41. 競技者は、私語は慎み、特に釣りに関する質問は禁止とする

検量

42. 検量をしてもらっている競技者は、エサを打たないこと
43. 検量は、フラシを持ち上げて止まった目盛りを読むこと
44. 検量は2名以上で目盛りの確認をすること

45. 検量表及び競技者の持っている検量カードに目盛りの数字をそのまま記入すること。その際に、競技者から渡された検量カードに名前がフルネームにて記入されているかを確認し、無記入の場合は、失格を宣告する
46. 放流は、競技者の席にて行う

競技終了

47. 終了と同時にへら鮒が掛かっていたら釣果とみなす
48. サドンデスの場合、延長 60 分とする、それでも勝負がつかない場合はコイントスで勝敗を決する事とする
49. 残りエサは規定の器に入れることとする

特にS級A級B級の審査を重視する項目

- ☆ S級審査は競技中の26, 27を重視します。
- ☆ A級審査は競技中の9, 10, 11, 12を重視します。
- ☆ B級審査は項目6の中の「1」「2」「4」「5」を重視します。